

平成 24 年度
事務事業の点検及び評価報告書

平成 25 年 9 月
恩納村教育委員会

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）されたことに伴い、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の執行及び管理状況についての点検、評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表することになっております。

そのため、恩納村教育委員会では、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第 27 条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置しその知見の活用を図りました。

この報告書は、毎年作成し公表しておりますが、教育委員会としましては、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくことにしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてまとめ、議会に提出した後、村民に公表するとともに、翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとし、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えております。

(参考)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 27 条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成 20 年 4 月 1 日施行）

2 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は 5 名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関することや教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関することなど教育行政の執行管理を行っています。教育委員会の代表者であり教育委員会議の主宰者である教育委員長は委員の互選により選出されます。また、教育公務員であり教育委員会事務執行責任者である教育長は教育委員の中から任命されます。教育委員長と教育長は兼任することはできないこととなっています。

通常の業務については、委員の中から選任された教育長を通して、業務の執行管理を行いますが、教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっています。

(1) 教育委員の任命状況

教育委員は、地方公共団体の長の被選挙権を有する者の中から、村長が議会の同意を得て選任し、その任期は 4 年となっています。平成 24 年度は、渡口委員が委員長に再選され、宮平委員が委員長職務代理者に選任されました。また、宜志富栄委員が辞職され、後任に外間毅委員が選任されました。外間委員の任期は、宜志富委員の残任期間となります。

平成24年度の教育委員は次のとおりです。

役職	氏名	任期	教育委員としての経歴		備考
			当初就任	勤続年数	
委員長	渡口美智子	平成21年7月1日～平成25年6月30日	平成17年	2期7年	委員長2年
委員	宜志富栄	平成23年4月1日～平成24年6月30日	平成19年	2期5年	辞職 6月30日
委員	外間毅	平成25年3月18日～平成27年3月31日	平成25年	1期	宜志富委員の残任期間
委員	島袋正重	平成21年5月1日～平成25年4月30日	平成13年	3期12年	
委員	宮平千佳	平成22年4月1日～平成26年3月31日	平成22年	1期3年	委員長職務代理者
教育長	石川哲夫	平成21年4月1日～平成25年3月31日	平成21年	1期4年	

(2) 教育委員会の会議

教育委員会は、恩納村教育委員会会議規則に基づいて毎月21日を定例教育委員会の開催日として会議を開催するほか、緊急を有する事案が出た場合は適宜臨時会を開催し、必要事項を審議し決定しています。また、各種の主催事業や村の各種行事、各種の研修会などにも積極的に参加しています。

平成24年度の教育委員会の会議の開催状況は次のとおりです。

会議の名称	日時	場所	出席委員	案件等
4月定例会	4月19日 午前10時	役場3階会議室	5人	1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第1号 恩納村立学校評議員の委嘱について 4. 議案第2号 教育委員長の選任について 5. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒情報管理システムにおける指導要録の取扱要領について ・学校計画訪問の実施計画について ・スキルアップ研修の開催について ・県の定期総会について
5月定例会	5月21日午後1時30分	役場3階会議室	5人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・恩納村立幼小中学校学校訪問について ・中頭地区市町村教育委員会連合会総会及び研修会について ・教職員の服務、職専免の取り扱いについて ・日本復帰に関する授業の取り組みについて ・地域学習塾の運用について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
6月定例会	6月21日 午前10時	役場3階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・台風対策について ・携帯電話に係る諸問題について ・中体連の村内各校の成績について ・学校訪問について ・標準学力調査の各校結果について
6月臨時会	6月28日 午前11時	役場3階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 議案第3号恩納村教育委員会の辞職の同意について 2. 議案第4号教育委員長職務代理者の選任について 3. 議案第5号恩納村立学校評議員の追加委嘱の件について 4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度恩納村地域懇談会について
7月定例会	7月20日午前10時10分	役場3階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回及び前々回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第6号学校管理規則の一部を改正する規則について 4. 議案第7号恩納村立小中学校事務連携室運営要綱の制定について 5. 議案第8号教育長の権限に属する事務の一部を 学校その他の教育機関の長及び事務長に委任する規程の制定について 6. 議案第9号平成24年度要保護及び準要保護児童生徒認定について 7. 議案第10号平成24年度恩納村立幼稚園保育料減免者の決定について 8. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒活躍の報告 ・村内におけるいじめの実態について ・8月校務研について ・生徒会リーダー研修要綱について ・教育課程特例校の指定等に係る申請手続きについて

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
7月臨時会	7月26日 午前10時	役場3階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 議案第11号事務事業の点検及び評価報告書について 2. その他の協議事項
8月定例会	8月21日 午前10時	役場3階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回及び前々回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 恩納校の教育課程特例校指定について ・ 恩納校の加配について ・ 9月の特別研について ・ 中学陸上のスタートについて ・ 村生徒会リーダー研修会について ・ 人権コンサートについて ・ 未成年者の喫煙等について ・ 地域塾支援事業について
9月定例会	9月21日 午前10時	役場3階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 恩納校の生徒指導の件について ・ 県教育庁学校訪問について ・ 運動会の役割分担について ・ 北海道石狩交流について ・ 次年度人事異動について ・ 中学生逮捕の記事について ・ 教職員の不祥事関係について ・ 昨年度の事業点検評価について ・ 秋田県講師派遣事業について ・ 中頭地区市町村教育委員会連合会研修会のテーマ及び講師について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
10月定例会	10月22日 午前10時	役場3階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第12号 恩納村教育委員会表彰規程の制定について 4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・要保護準要保護の村内割合について ・教育庁人事ヒアリングについて ・学力向上推進委員会企画委員会について ・青少年深夜はいかい等防止について ・村内の高速インターネット回線開設について ・中頭地区市町村教育委員会連合会第2回理事会について ・指導主事及びミドルリーダーの県外研修について ・台風被害について
11月定例会	11月21日 午前10時10分	役場3階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議の概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第13号 恩納村体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について 4. 議案第14号 恩納村体育施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について 5. 議案第15号 恩納村体育施設の指定管理候補者の決定について 6. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・文教施策の要請事項について ・教育の日の制定記念式典と基調講演について ・あいさつ標語コンクールの審査結果の報告について ・県外先進校視察研修の報告について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
12月定例会	12月21日 午前10時	役場3階会議室	4人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第16号恩納村立学校職員の職務に専念する義務の特例に関する規則の制定について 4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・夢作文コンクールについて ・県到達度テストの各学校の正答率について ・仲泊中学校の振り返り学習について ・教育の日式典について ・恩納校の国際教室について ・図書館準備室から情報センターの進捗について
1月定例会	1月21日 午前10時	役場3階会議室	4人	1. 前回概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第17号恩納村立幼稚園預かり保育実施要綱を改正する要綱の制定について 4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・教育の日表彰候補者内申書について ・全県指導主事研修会の内容について ・人事担当者会の内容について ・次年度の2学期始業式の日程について ・沖縄県市町村教育委員会連合会理事会の内容について ・教育委員会の機構改革等について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
2月定例会	2月20日午後2時	役場3階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第18号恩納村立幼稚園管理規則の一部を改正する規則の制定について 4. 議案第19号恩納村特別支援教育就学奨励費給付要綱制定について 5. 議案第20号恩納村立学校給食センターの設置、管理及び職員に関する条例の一部を改正する条例について 6. 議案第21号恩納村教育委員会事務局組織規則の制定について 7. 議案第22号恩納村教育委員会事務局組織の変更に伴う関係要綱等の整備に関する要綱の制定について 8. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・中頭地区10市町村の学校訪問について ・各学校の学推取り組み構想の自己評価について ・未来塾の閉講式について ・学推関係表彰式について ・学校美化コンクールについて ・学びを確かめつなぐ集いのアンケート結果と参加人数について ・石狩交流派遣事業について
2月臨時会	2月22日 午後2時	役場3階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 議案第23号平成24年度公立学校管理職の定期人事異動の内示承認について 2. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーの配置について
2月臨時会	2月27日 午前10時	役場3階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 議案第24号平成25年度教諭等の定期人事異動の内示承認について 2. 議案第25号平成25年度教育委員会職員に係る人事異動内示(案)の承認について 3. 議案第26号職員の勧奨退職の承認の件について 4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書、用務員、幼稚園教諭の人事について ・指導主事の人事について ・全国学力テストに係る学校訪問について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
3月定例会	3月22日 午後2時	役場3階会議室	5人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第27号 恩納村博物館非常勤館長の委嘱について 4. 議案第28号 社会教育委員の委嘱について 5. 議案第29号 恩納村社会教育指導員の委嘱について 6. 議案第30号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について 7. 議案第31号 恩納村心の教室相談員の委嘱について 8. 議案第32号 恩納村立学校における学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 9. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・体罰に関するアンケートの報告について ・臨時的任用職員の配置について ・村雇用職員の配置について

なお、教育委員会で審議された案件を、分類すると次のようになります。(議事概要の承認、業務報告等定型的なものは除く。)

条例関係	規則・規定・要綱等	人事関係	その他	合計
2件	11件	15件	4件	32件

(3) 主催行事や学校行事への参加状況

教育委員会には教育委員会の行事や学校の行事など多種多様な行事があります。教育委員は、本村の教育行政の最高意思決定機関として、それらの行事に参加し、状況把握に努め、その結果を教育行政に反映させています。

平成24年度中における主催行事や学校行事等各種行事への教育委員の参加状況は、次のとおりです。

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
平 24 年 4 月 2 日	役場 2 階会議室・1 階会議室	平成 24 年度職員辞令交付式	渡口委員長・石川教育長
4 月 3 日	総合保健福祉センター	平成 24 年度教職員辞令交付式	全委員
4 月 5 日	名桜大学	名桜大学入学式	石川教育長
4 月 9 日	恩納小中学校体育館 石川高校体育館	中学校入学式 石川高校入学式	石川教育長 石川教育長
4 月 10 日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館 恩納小中学校体育館	小中学校入学式 小中学校入学式 小中学校入学式 小中学校入学式 小学校入学式	宜志富委員 島袋委員 石川教育長 宮平委員 渡口委員長
4 月 11 日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	入園式 入園式 入園式 入園式 入園式	宜志富委員 島袋委員 渡口委員長 石川教育長 宮平委員
5 月 10 日～11 日	宮古島市	沖縄県教育委員会委員連合会研修会、総会	渡口委員長、石川教育長、宜志富委員、宮平委員
5 月 16 日	恩納小中学校	スキルアップ研修	全委員
5 月 22 日	役場 2 階会議室	恩納村学力向上推進委員会総会	全委員
5 月 26 日	恩納小中学校	第 6 回太平洋島サミット学校交流	石川教育長
5 月 29 日	喜瀬武原小中学校	中頭教育事務所学校総合訪問	全委員
5 月 30 日	安富祖小中学校	学校訪問	全委員
5 月 31 日	恩納小中学校	学校訪問	全委員
6 月 6 日	山田小中学校	学校訪問	全委員
6 月 11 日	仲泊小中学校	学校訪問	全委員
8 月 1 4 日	ゆうなホール	少年の主張・意見発表会	石川教育長、宮平委員

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
7月6日	喜瀬武原小中学校	地域教育懇談会	石川教育長
7月22日	コミュニティセンター	恩納村幼稚園児お話大会	渡口委員長、石川教育長、宮平委員
9月4日	山田小中学校	特別授業研修（川島環、椎名恵美子先生）	渡口委員長、石川教育長、島袋委員
9月5日	安富祖小中学校	特別授業研修（川島環、椎名恵美子先生）	石川教育長
9月6日	喜瀬武原小中学校	特別授業研修（川島環、椎名恵美子先生）	石川教育長
9月6日	恩納小中学校	教育庁学校計画訪問	石川教育長
9月6日	O I S T	O I S T開校式	教育長
9月7日	中頭教育事務所	中頭地区少年の主張・意見発表会	渡口委員長、島袋委員
9月8日	赤間野球場	恩納村少年野球大会	渡口委員長、島袋委員
9月10日	ゆうなホール	人権コンサート	島袋委員
9月21日	ゆうなホール	村英語ストーリースピーチコンテスト	渡口委員長、石川教育長、島袋委員
9月23日	喜瀬武原校	運動会	石川教育長
9月26日	恩納小中学校	人権の花植え付け式	渡口委員長、島袋委員
10月1日	那覇市民会館	沖縄県市町村教育委員会委員連合会研修会	渡口委員長、宮平委員、石川教育長
10月7日	安富祖小中学校 恩納小中学校 仲泊小中学校 山田小中学校	運動会	石川教育長 島袋委員 渡口委員長 宮平委員
10月19日	ゆうなホール	村童話お話大会	石川教育長
10月25日	安富祖小中学校	未来塾開講式	石川教育長、島袋委員、宮平委員
10月27日	ゆうなホール	恩納・仲泊・山田吹奏楽部合同コンサート	石川教育長
11月16日	山田小中学校	校舎落成記念式典	渡口委員長、石川教育長、宮平委員
12月4日	恩納小中学校	人権の花開花式	渡口委員長、石川教育長、島袋委員
12月12日	恩納小中学校	人権作文発表会	島袋委員
1月4日	コミュニティセンター	成人式	渡口委員長、石川教育長、島袋委員、宮平委員
1月27日	安富祖小中学校 喜瀬武原小中学校 恩納小中学校 仲泊小中学校 山田小中学校	学習発表会	石川教育長 島袋委員 渡口委員長 宮平委員

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
1月29日	ゆうなホール	恩納村教育の日制定式典	渡口委員長、石川教育長、島袋委員、宮平委員
2月1日	恩納村多目的運動場	落成記念式典	渡口委員長、石川教育長
2月3日	ゆうなホール	学力向上推進実践報告会	渡口委員長、石川教育長、島袋委員、宮平委員
2月16日	恩納小中学校	中頭地区学力向上実践推進大会（恩納大会）	渡口委員長、石川教育長、島袋委員、宮平委員
3月4日	役場2階会議室	学対関係コンクール表彰式	渡口委員長、宮平委員、石川教育長、島袋委員
3月5日	安富祖小中学校	未来塾閉講式	島袋委員、宮平委員、石川教育長
3月10日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館	中学校卒業式 小中学校卒業式 中学校卒業式 〃 〃	石川教育長 島袋委員 渡口委員長 宮平委員
3月16日	博物館	生涯学習講座発表会	渡口委員長、宮平委員
3月19日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	卒園式 卒園式 卒園式 卒園式 卒園式	島袋委員 宮平委員 外間委員 石川教育長 渡口委員長
3月19日	山田小学校	小学校卒業式	渡口委員長
3月21日	安富祖小学校 恩納小学校 仲泊小学校	小学校卒業式 小学校卒業式 小学校卒業式	宮平委員 石川教育長 島袋委員
3月29日	役場2階会議室	村職員退職辞令交付式	渡口委員長

(4) 研修会や懇談会

教育行政の推進には教育委員の資質向上は必要不可欠です。そのため、各種の研修会に積極的に参加し、他市町村の状況を把握すると共に教育委員としての知識の向上に努めています。また、地域の声を村教育行政に反映させるため、村内の各団体との意見交換会や懇談会を開催しています。

平成 24 の研修会や懇談会等への出席状況は、次のとおりです。

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
5月10日から11日	宮古島市	沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会	渡口委員長、石川教育長、宜志富委員、宮平委員
6月8日	O I S T	平成 24 中頭地区市町村教育委員会連合会研修会	渡口委員長、石川教育長、宜志富委員、島袋委員、宮平委員
7月5日	仲泊小中学校	地域教育懇談会	渡口委員長
7月23日	塩屋公民館	地域教育懇談会	宮平委員
7月23日	宇加地公民館	地域教育懇談会	渡口委員長、石川教育長
7月24日	瀬良垣公民館	地域教育懇談会	島袋委員
7月24日	山田公民館	地域教育懇談会	宮平委員
7月24日	真栄田公民館	地域教育懇談会	渡口委員
7月25日	安富祖小中学校	地域教育懇談会	石川教育長
7月26日	恩納公民館	地域教育懇談会	島袋委員
7月26日	谷茶公民館	地域教育懇談会	石川教育長、宮平委員
7月27日	太田公民館	地域教育懇談会	島袋委員
7月27日	南恩納公民館	地域教育懇談会	石川教育長
10月1日	那覇市民会館中ホール	平成 24 年度沖縄県教育委員会連合会研修会	渡口委員長、宮平委員、石川教育長、島袋委員
2月7日	沖縄県庁	沖縄県市町村教育委員会連合会研修会	渡口委員長、石川教育長、島袋委員、宮平委員
2月8日	中頭教育事務所	平成 24 年度中頭地区市町村教育委員会連合会研修会	渡口委員長、石川教育長、島袋委員、宮平委員

3 事務の点検評価について

平成 24 年度の事務の点検及び評価の項目は、前年に引き続き、効果的かつ効率的な事業の実施を行うため、前年度の課題克服に向けた取り組みとその結果を明確にし、その結果を踏まえて、事業効果を判断し、継続すべきか、規模拡大又は規模縮小、または廃止まで踏み込んで評価を行いました。

事業評価シートの項目は、前年と同じ「事業項目」、「実施目標」、「前年度の課題」、「課題克服に向けた取り組み」、「事業の成果」、「今後の課題」、「評価」、「総合判断」の 8 項目としました。

総合判断では、事業の成果と費用対効果を勘案し、

- ① 現状の内容で継続
- ② 事業規模を拡大又は縮小して継続
- ③ 事業の廃止

の 3 項目で判断しました。

事務事業の点検・評価は、前年度に実施した事業について、すでに現年度の事業が進んでいる時点で行われることから、課題に対する取り組みは既に評価の時点で事業が終了していた場合など当該年度では取り組めないこともあり、実質的な課題解決に対する取り組みは 1 年遅れになることがありますが、この事業点検評価を翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとしします。

評価の方法については、次のとおり 5 段階で評価しました。

- S：目標以上に事業効果をあげることができた。
- A：目標が達成できた。
- B：目標が概ね達成できた。
- C：目標が一部しか達成できなかった。
- D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された平成 24 年度の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

(1) 学校教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教育委員会研修事業	各種の研修会に積極的に参加し、教育委員各自の教育に関する見識を高める。	県市町村教育委員会連合会や中頭地区市町村教育委員会連合会事務局としての積極的な関わり方。	中頭地区市町村教育委員会事務局として中頭教育事務所及び中頭地区の市町村教育委員会との連携等を図った。県市町村教育委員会委員連合会の研修会、中頭市町村教育委員会連合会の研修会への参加、学校訪問、地域懇談会等への参加により教育に関する見識を深めた。	中頭教育事務所及び市町村教育委員会との連携を図った結果、中頭地区教育委員会事務局としての各種研修等を含めた役割を果たせた。	教育委員会における各事業への積極的な関わりや自主研修等の計画及び実施を検討していく。	B	①現状の内容で継続
教職員友の会補助事業	教員志望者に対し、教員採用試験に関する講義や演習を実施し、受験対策を行う。	沖縄関係、一般教養ジャンルを限定した演習の実施。	年間事業計画に明確に位置づけて実施する。	前年度同様、合格者の学習方法に絞った講義を取り入れた。4回の学習会に13名が参加した。小学校1名、中学校1名合格。	民間対策塾との情報連携や回数検討。	B	①現状の内容で継続
学校事務職員研修事業	学校事務職員の事務能力の向上及び効率化を図るため、毎週水曜日の午前中、拠点校にて給与、サービス、文書等の取り扱いについて共通理解と点検を行う。	学校管理規則改正と事務事業の権限移譲に係る運営への関わり方	教育委員会事務局との連携を図る。	必要に応じて、教育委員会と事務連携を図った。サービス関係・給与関係についてのチェック機能が充実。	村雇用職員の勤務条件や職務に専念する義務の免除の特例等についての共通理解。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
学校評議員設置事業	村民の意見を学校経営に取り入れることで地域に開かれた学校づくりを推進するため、各学校に5名以内の学校評議員を配置した。	評議員会議の内容の改善点について、学校経営方針にどのように反映されたのかの報告を求める	学校評価の関係者評価の提出を求める。	全幼稚園・小中学校から学校評価が提出され、評議員の意見を取り入れた経営に改められている。	部活動や生徒指導に対する意見交換が必要。	B	①現状の内容で継続
校長会・教頭会	教育関連法規の改定や教育委員会による事業説明、質疑・応答を通して共通理解を図り、学校経営に資する。現場の課題についての情報交換をし、課題を明確にし、教育行政に反映させる。	各学校による主体的な教育課程の「質」と「量」の管理と各教師の教育課程に対する意識変革(週案)。	管理職研修会や教務研修会において、教育課程の「量的・質的」確保について周知を図る。	教育課程の「量」の確保については、全ての学校が理解し、年間行事計画を立てている。	教育課程の「質」の確保についての周知を図る。にぬふぁ星メゾットの周知を図る。	B	①現状の内容で継続
教育相談事業	各種の事情により配慮を要する幼児児童生徒とその保護者の相談に応じ、必要な助言をする。	軽度発達障がいなど、特別に支援を要する児童生徒への相談。	教育委員会学校訪問や心の教室相談員との連携を図る。	学校訪問において、教育相談活動についての周知を行った。	過卒生に対する教育相談。	B	①現状の内容で継続
教育委員会学校計画訪問	村の教育施策との整合性及び校務全般の管理・運営状況を確認し、学校経営に資する。	各学校の児童生徒の朝の登校と活動状況視察の確認と授業参観の時間を多く取ること。	一日参観を計画。授業参観を2時間確保する。	登校時間から授業時間に至るまでの教育活動を参観することができた。	授業内容に対する指導助言の実施。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
中学生リーダー研修	学校生活や学級活動、生徒会に係る課題等を協議することにより生徒会活動の活性化と企画力、発表力、表現力、協調性を育成する。	各中学校の生徒会のリーダーを育成し、各学校でその成果を発揮する取組みにする。生徒会として行事や学級活動等、学校教育との連動した取組が必要である。	生徒会活動のマネリ化（毎年、同じ取組）がみられる。また、モデルケースを提示（積極的な生徒会活動を取り組んでいる学校）の実践事例紹介）をして、視野を広げる必要がある。	各学校の生徒会代表が一同に会し、自校の課題について掘り下げ、改善に向けて5校の生徒の意見を吸い上げる充実した研修会となった。課題について、積極的に発言をすることができた。各学校の混合でも議論を進めることができた。	毎年テーマを設定し、本村のリーダーとして充実した研修会にする。 学校教育と連動した生徒会が学校生活を築き上げる取組が必要になる。また、各学級単位でも「熟議」に取組む必要がある。	B	①現状の内容で継続
奨学資金貸与事業	経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。	増加傾向にある奨学金申込者に対応するため、次年度より募集要項等を改正し、募集枠の改善を行う。奨学金償還は、請求通知回数を更に増やし、連帯保証人等への償還義務の周知を行い、長期未納者対策を講じ、奨学金貸付の原資確保に努める。	奨学金申込者の県内申込者に増加傾向にあったため県外申込枠17名のうち3名分を県内枠へ増額し、県内枠を4名増で対応を行い、申込者全員に貸付を行うことが出来た。収納事務においては、支払い機会（納付書の複数回発送、繰上償還の相談、納入金額の相談等）を増やした結果、貸付額以上の収入の確保（寄附金含む）ができた。更に長期未納者の中に死亡者（連帯債務者なし）がおり、不納欠損処理を2件で1,625千円行った。	申込者34名（県内：20名、県外：14名）に対し、県内外の募集枠の変更により、申込者全員への貸付を行うことが出来た。収納事務は納入通知書の送付回数を増やした結果、新規納入者（滞納者）が増えたが、一時的な納入はあるが、継続した支払いには至っていない。貸付額は13,400千円となり、支出に対し、徴収額は771千円の減となっています。但し、寄附金収入の950千円を合算すると179千円の収入増となりました。	増加傾向にある奨学金申込者に対し、引き続き募集枠の改善を行い、人材育成の目的を達成するとともに経済的理由による進学断念の状況が生じないように対応していくことと徴収事務の強化（納入通知書の複数回送付、送金システムの案内、連帯保証人への通知等）を行い、長期未納者への対応を講じていきたい。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
職場体験学習事業	村内5校の中学2年生を対象に正しい職業観・勤労観を身につけさせることをねらいとする。	学校現場が行う職場開拓を教育委員会が実施しているため、担当職員の職場との連携が受身になりやすい。また「なりたい自分」「なれる自分」の広がりや重なりを認識できる学習活動が必要である。	各学校担当者の資質の向上を図るための研修会を実施する。キャリア教育の視点をふまえた活動の充実を図るため、リーフレットやパンフレットを作成、配付して意義付けを可視化する。	各学校ともに、事前学習で勤労観・職業観を養う取組ができた。また、各事業所から、苦情やクレームなどがなくなった。職場体験学習の事後学習の一環である夢作文の内容がよくなった。(体験を自分の言葉で表現できた)	キャリア教育における職場体験学習の位置づけについて理解を図る。 体験先事業所の事前調整が、教育委員会主体であるため、担当職員主体性が薄い。	B	①現状の内容で継続
幼稚園教諭研修会	村内5幼稚園教諭の資質の向上を図る。幼稚園運営に関する意見交換を行い、改善に関する方策を策定する。	幼稚園教諭研修会への指導主事の関わりは引き続き課題となっている。村外への研修に参加させるための条件整備が必要である。	定期幼稚園教諭研修会へ参加する。	預かり保育等、新たな課題に対して幼稚園教諭と連携して取組んだ。	各園とも、一人体制のため、村外での研修は限定的となる。長期休業中の計画を検討。 幼児教育推進会議との連携。	B	①現状の内容で継続
幼稚園の絵本整備	絵本に親しむ幼児を育成するため、図書備品の拡充を図る。	絵本整備は順調に行われているが、幼稚園現場との更なる連携を行い、読み聞かせ等の幼児期における本に対する興味を引き出し現状の事業を充実させる。	年間整備予算に基づいて、購入する絵本の内容を検討する。	幼稚園において、趣旨を周知し、計画的に購入することができた。	活用実績を掌握する。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
幼稚園管理備品・保育振興備品整備事業	幼稚園教育に関する備品及び保育環境の充実を図る。	各幼稚園での備品及び遊具等を確認し、整備状況を更に向上させる。	各幼稚園での備品整備状況を確認し、備品要望書を事前に提出してもらい、予算の範囲内において必要度高い順に整備を行った。	各幼稚園での保育に関する備品整備を行うことによって保育環境の充実が図られた。	各幼稚園での備品及び遊具等の現状確認を行い、修繕及び買い替え等を検討し、整備状況を更に向上させたい。	A	①現状の内容で継続
幼稚園教育の推進	幼稚園の自然環境・人的環境を生かした特色ある保育活動を実施する。	幼小中連携した特色ある教育活動の実施。	年間行事計画に位置づけて実施する。	山田幼稚園、恩納幼稚園の2園が、初任者・臨時的任用の配置となり、幼稚園会でのサポートが充実した。	各園における特色ある教育活動の継続化。学校の現状に応じた人材配置が必要。	B	①現状の内容で継続
教育振興備品整備事業	学校の要望に基づく教材備品を拡充することにより、効果的な学習が行えるようにする。	前年度購入備品の監査を実施し、特色ある教育活動及びモデル的教育に対する備品の購入。	I C Tモデル校へのパソコン等の入替を行い、学習内容での基礎基本の確かな定着を目指し、日常的なI C T活用の開始ができた。	I C T活用において児童生徒へのわかりやすい授業や先生方への基礎的・基本的な知識と技能の確かな定着を図るための日常的授業改善の工夫が見られた。	前年度と同様に備品購入の監査を実施し、今後も計画的な備品整備を行い、各学校でのI C T整備も推進していく。	A	①現状の内容で継続
就学支援事業	一定の条件を満たした家庭の児童生徒に対し、学資を援助して経済的に恵まれない児童生徒の教育を支援する。	今後も学校との連携が必要。また、支援業務の更なる周知徹底を図る為、村ホームページ等への掲載を行う。	村ホームページ等への掲載に向けて、他市町村のホームページ・広報等に目を通し、情報収集に努める。	事務職員との連携により円滑に支援できたが、更なる周知のため、村ホームページ等への掲載を課題としていたが情報収集のみにとどまった。	周知徹底を図る為、村ホームページ等への掲載、また今年度よりSSWが配置されたので連携して、経済的支援を進めていきたい。	B	①現状の内容で継続
心の教室相談員配置事業	児童生徒のストレスや悩みを和らげ、健全な学校生活を営むことができる学校環境を整備する。	相談員の専門的な力量を高める必要がある。	心の教室相談員研修会における研修内容の充実を図る。	ケースに応じた、相談員同士のアドバイスや事例紹介ができた。	S C・SSW・相談員との連携。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教育の情報化コーディネート	恩納村立幼稚園・小中学校における学校ICT環境整備に対する提案とその効果的な活用、情報化による授業改善や児童生徒への直接指導、テレビ電話システムを活用、リスクマネジメント、情報機器を活用した情報公開・広報等について専門的知見から教育の情報化を推進するために派遣する。	総合教育センターと連携して生徒情報管理システムを導入し、校務の軽減を図る。 アジア諸国との交流学习について、指導と評価の一体化や教育課程への位置づけが不十分。	安富祖中学校をリーディングケースとして指定し、その結果を村内各学校へ広げる。 各学校の交流学习について、交流内容を明確にし、学習方法の手順を示すマニュアルを作成する。また学校の担当者を中心に実践する。	現在、喜瀬武原・安富祖・山田の各中学校が活用している。 計画的に交流を実践できた学校（安富祖校・喜瀬武原校）がある。指導についてのマニュアルを中心に進めることができた。リーディングケースとして中頭学推で発表できた。	全ての学校及び小学校への拡大を図る。 交流先と計画的・継続的に交流を実践するために教育課程への位置づけが必要。校務分掌に担当者を決めて計画的に実践する必要がある。	A	①現状の内容で継続
学習支援員配置事業	学校教育の最大の課題である児童生徒の学力向上に資するため、各学校へ学習支援員を配置し、算数・数学を中心としたきめ細かな指導を実施する。	スキルアップ研修会での支援員部会を立ちあげ、授業展開に関する研修会を開催する。	スキルアップ研修会で部会長を選出し、主体的な活動を促す。	全国学力調査及び県到達度調査において着実に成果を上げている学校がある。	3・4年生以外に、学校課題である学年にも配置できるようにする。	B	①現状の内容で継続
特別支援員配置事業	障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する。	特別支援教育に係る個別の支援教育についての担当者研修会の実施。	年間11回の研修会を設定して、ケースについての情報交換を行う。	支援員個々の力量の差があり、十分に活用できていない学校もあった。	継続して、支援員研修会を開催するとともに、内容の充実を図る。	B	①現状の内容で継続
英語指導助手派遣事業（ALT）	ネイティブを配置することにより、児童生徒の外国語「英語」力の向上を図る。	中学校指導要領の完全実施に伴う指導時間数増加による対応。	ネイティブの時間的・内容的な検討を加え、効果的に活用するように助言する。	教育内容の指導及び英語関係行事をスムーズに実施することができた。	恩納小学校教育特例校に対するネイティブの増員。	B	②事業規模を拡大して継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
対外競技派遣事業	児童生徒の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	後年度も継続して各部活動の充実を図るため対外競技派遣費用の確保を行う。	各学校での部活動が充実し、県内外での大会への派遣費用等の予算確保に努めた。	空手・バドミントン・卓球・ソフトボール・パソコン(創造ものづくり教育フェア)等への派遣費用を確保できた。	後年度も継続して各部活動の充実を図るため対外競技派遣費用の確保に努める。	S	①現状の内容で継続
中学校部活動支援事業	中学校の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	各部活動の更なる発展を推進するため継続的な活動予算を確保する。	文化的・体育的活動の充実を図るため部活動消耗品等の部活動予算の確保に努めた。	各学校への部活動予算の配分を行い、部活動消耗品等の充実が図られた。	各学校部活動の更なる発展を推進するため継続的な部活動予算を確保する。	A	①現状の内容で継続
知能検査 標準学力検査事業	児童生徒の学力の定着状況を把握し、指導法の工夫改善に役立てる。	調査結果の活用について学校差がまだ見られる。学校の児童生徒のつけたい力を明確にする必要がある。	各種研修会において、活用についての周知を図る。調査結果を授業や教育活動へ反映させる必要がある。	中学校3学年テストの活用が全ての学校で実施されている。	生徒理解の一環として、中学校知能検査については、実施学年を1学年とする。	B	①現状の内容で継続
指定研究事業	特色ある学校づくり及び学力の向上を目指し、教科・領域指定及び皆泳指定研究をする。	新規事業	新規事業	山田校でのICT授業が促進されている。皆泳指定では、6学年児童の7割が50メートル以上泳げるようになった。	指定研究2年目の取り組み及び安富祖校の推進。皆泳指定講師の確保。	A	②事業の規模を拡大して継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
山田小中学校施設整備事業	安心・安全な教育環境の確保	今後は、校舎周辺の外構工事と仮設校舎として使用していた特別教室棟の改修を進める。	校舎改築後更地になっていた建物周辺を整備した。	校舎改築後更地になっていた建物周辺を、アスファルト舗装及び芝張りした事により安全かつ衛生的な教育活動に寄与することができた。	校舎を含めた施設及び設備の適正な維持管理	A	③ 事業の廃止(完了)
学校施設持管理事業	適切な学校の施設及び設備の維持管理を行なうことによるよりよい教育環境の確保	各学校のプール施設及び既設校舎の空調設備は、老朽化が進み修繕等については予算の確保を行い、大規模改修等については、関係機関と調整を行い事業化の取組みを行う必要がある。	中学統合問題等を考慮しながら時期を検討する。	安富祖校空調・仲泊校・恩納校のプールの機械の老朽化が進み故障箇所も多く、修繕により対応してきた。	安富祖校の空調設備・仲泊校・恩納校のプール施設は、老朽化しているので早く関係機関と調整して事業化に向けて取り組んでいく。	B	①現状の内容で継続
恩納村立中学校適正規模推進事業(恩納村教育振興審議会答申)	少子高齢化に伴い、幼小中学校の児童生徒の減少化は進み、殆どの中学校で学年1学級又は複式学級となっており、今後もこの傾向は続くことが予測され幼小中学校の適正規模推進計画を策定し、中学校統合に向けた事務事業を実施する。	新規事業	前年度に恩納村教育振興審議会にて提案されたアンケート実施の結果を踏まえ、各字評議員への説明を行い、課題点等を集約した。今回の課題点の内容を精査し、解決策の検討作業を行った。	各字評議員への説明会を実施した結果、各字が抱えている課題等が聴取でき、解決策等の提案ができた。次年度に予定している各校区ごとの地域説明会での参考資料とし、同事業を進めて行く。	答申内容に沿った事務事業の推進を実施し、中学校統合の先行地視察を実施し、統合後の現状の把握に努め、地域説明会等の実施に生かしていく。	B	①現状の内容で継続

(2) 社会教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
青少年団体等活動 助成事業	青少年団体等が実施する活動を支援し、体験活動等とおして健全な青少年の育成を図る。(4団体目標)	子ども会への周知に留まらず、他の各種青少年団体等への周知を図ることが必要。 スポーツ団体や読み聞かせ団体との連携。	子ども会及び読み聞かせボランティア団体、少年スポーツ団体への周知を行った。	子ども会以外で読み聞かせボランティア団体への助成が出来た。しかしながら4団体への助成が目標であったが、3団体への助成に留まった。	子ども会を含めた各種団体へ事業の周知を継続して行う。	C	①現状の内容で継続
国際交流派遣事業	創造性、積極性、国際性に富み、グローバルな視点で物事を考察できる人材の育成を目指す。(中高校生対象、6名、但し、応募が少ない場合には大学生も対象)	これまでの周知方法以外に、村ホームページへの掲載、村広報誌への掲載、近隣高等学校への文書発送先の拡大を図る必要がある。 また、出発前の激励会や帰国後の報告会等の開催や率先して英語ストーリースピーチコンテスト等への出場に関し学校側との連携が必要。	周知方法として、募集案内を広報誌へ掲載。 激励会・報告会の開催。 帰国後、学力向上推進実践報告会にて参加者の発表の機会を設けた。	これまでの学校や公民館への周知依頼に加え、広報誌、ホームページ、防災無線等を活用することで、前年度の応募者5名に対し、応募者が11名と増加した。 また、出発前の激励会で参加者の意気込みを聞くことで、帰国後の意識の変化を報告会にて確認することができた。 中学生の参加者については、村学推実践発表会において、感想発表を行った。 高校生：4名 中学生：2名	「アメリカホームステイプログラム」については今後も継続するが、村立小中学校で台湾の小中学校とインターネットを活用した交流を行っているので、現地児童生徒との交流に繋げていくことで、新たな交流事業として展開する必要がある。	A	②事業規模を拡大して継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
サバイバルキャンプ事業	無人島においてキャンプを行うことにより、自然に親しみ、仲間と協力することで協調性を育み、健康で思いやりのある心の育成を図る。	引き続き、事業目標やプログラム検討を行いながら、事業目的の再確認及び安全確保の徹底を図り、参加者を含め、ジュニアリーダーの意欲の向上を図る。	今回は事業実施に向けて、無人島周辺でのサンゴ再生状況の勉強の一環として、事前研修においてサンゴの保全・再生にかかる体験学習を行った。	今年度は、台風の影響により事業中止となったが、サンゴ再生に係る体験事業を行うことで、自然を守ることの大切さを知ることができた。	ここ3年間は、天候状況により、事業の中断や中止が多いため、予備日の設定等の検討が必要である。 また、引き続きリーダー育成に取り組む必要がある。	C	①現状の内容で継続
成人式事業	新成人の新たな門出を激励すると共に、社会を構成する成人として自覚と責任を認識し、住みよい村づくりへの意識の向上を図る。	早めの実行委員の募集や各字青年会等からの推薦により実行委員会を立ち上げ、時間をかけて企画・運営に取り組む。	早めの取り組みとして、村広報誌や各区へ実行委員会募集をした。	実行委員会募集を行ったが、応募者がなく前年度の実行委員より意欲的な者を推薦してもらい、祝賀会の企画・運営を行った。 また、祝賀会が新成人の交流のみに偏らないように、参加者が交流できるような内容を実施した。 成人式祝賀会実行委員 ：5名 新成人該当者141名 参加者114名	式典・祝賀会の内容を再検討する必要がある。 また、実行委員会主体による事業企画・運営していることの認知度が低いいため、今後も実行委員会の周知を図る必要がある。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
シルバー教室 (全7回)	高齢者が仲間とのふれあいを通して、生きがいづくりの機会とする。	<p>楽しめる教室も行いながら、老後の生きがいづくり、居場所づくり(サークル化)、更には年度末に開催される成果発表会の出場等へ繋がるような教室の内容を検討する必要がある。</p> <p>また、屋外で行う講座については、雨の少ない時期に行う等の配慮が必要である。</p>	<p>屋外で行う教室については、雨天時を想定して屋内で可能なサブメニューを策定して実施した。</p> <p>生きがいづくり・居場所づくりの機会として、現在、博物館にてサークル化している「大正琴」を教室として開催し、成果発表の出場機会を設けた。</p>	<p>「大正琴教室」については成果発表会で発表することで、受講者のやりがいにつながった。</p> <p>また、現在、博物館にてサークル活動をしている者と受講者の接点をつくることで、受講者の今後の生涯学習への支援ができた。</p> <p>グラウトゴルフ上達法： 12名</p> <p>シニアづくり教室：6名</p> <p>大正琴体験教室：6名</p>	<p>教室については、ある程度の成果を残しているが、今後は福祉健康課等の事業と重複しているもので、シルバーだけを対象とした教室から、村民を対象とした講座への転換が必要である。</p>	B	③事業の完了 (新規講座開設)
生き生き女性教室 (全4回)	<p>学習機会をとおして資質や技術の向上を図り、女性の地域づくりへの参加を推進する。</p> <p>併せて、受講を機に地域でのサークル活動に繋げ、生涯学習の啓発の場とする。</p>	<p>次年度も継続講座を重点に企画するが、サークル化への支援や現在活動が低迷している婦人団体の活性化に繋がる教室を開設する必要がある。</p>	<p>継続講座として、以前から要望の多い「パソコン教室」を取り入れ、各団体の会計処理などで活用できる表計算ソフトを習得する内容とした。</p>	<p>教室を受講した者が、所属する団体での会計処理の基本的な操作を習得することができた。</p> <p>シニアづくり教室：13名</p> <p>パソコン教室(家計簿をつけよう)：9名</p>	<p>受講者が参加しやすいように開催日時を考慮する必要がある。</p> <p>また、村婦人会や各字婦人会等が要望する教室内容をアンケートにて収集する必要がある。</p>	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
青年教室(全1回)	将来を担う人材育成の一環として、文化・教養・健康・地域づくりなどの学習の機会を提供することで、視野の向上と社会参加への意欲を高める。	意識改革に繋がる内容の教室であったが、村青年団協議会だけでなく、各字青年会や各字へ開催周知を徹底して、参加者の増に引き続き努める。	教室開設にあたり、村青年団協議会と事前協議を行い、周知協力や参加依頼をした。 各字青年会へ参加協力を行った。	村青年団協議会・各字青年会へ周知徹底したことにより、参加者の増加につながった。 また、人生設計の大切さを基本とした公演とワークショップによる自己啓発を行うことで、参加者への意識改革の支援につながった。 ユチングセミナー ～スタートのを見つけ方～ のを見つけ方～：23名	今後も村青年団協議会と協力し、講座の周知徹底をおこなう。 参加者に対しアンケートを実施し、青年層のニーズを把握する必要がある。	A	①現状の内容で継続(名称変更)
らくらく子育て教室(全6回)	子育てに大切な生活習慣のあり方を学び、親子のふれ合いと子育て中の親同士の交流の機会を設け、家庭教育の啓発を図る。	福祉健康課からの施設利用要望もあるが、前年度同様に支援センター以外での開催も引き続き検討する必要がある。教室内容については、支援センター職員の意向も確認する必要がある。	教室内容を、事前に支援センター職員と協議して決定した。	教室内容を支援センター職員と協議して決定したことにより、センター利用者が要望している内容を行うことができた。受講者間での育児に対する情報交換の場につながった。 アロマで虫除けスプレーづくり教室：30名 シーサーづくり教室：33名 キッズ・ヘアカット教室：17名 噛み噛み育児法：20名 手作り絵本を活用したお話し会：23名 お菓子づくり教室：17名	会場を支援センターに限定したため、施設利用者以外の受講者が少ないので、それ以外の会場設定が必要である。 また、内容が体験的教室に偏っているので、家庭教育の基本である生活習慣の改善につながる教室の開設の検討が必要。 屋外でのびのびと身体を動かせるような教室の検討も必要である。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	今後の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
地域リーダー研修	村内各地域及び団体間の交流を深めると共に地域のリーダーとしての資質の向上を図り、地域づくり、人材育成に繋げる機会とする。 (全1回)	これからもリーダー育成を目指し、継続する必要がある。 また、他地域の経験だけを学ぶだけでなく、各地域の抱えている課題の共有化を図る。	各地域及び団体が抱えている課題解決の糸口となる事例団体や個人講師の把握、講演依頼の交渉をした。	事例団体や個人との日程調整が付かず、開催することができなかった。	企画立案、講師依頼を早めに行い、事業実施に努めるとともに、事業内容として講演会方式やワークショップ方式等を適宜検討して行う必要がある。	D	①現状の内容で継続
専門分野研修 (全5回)	ボランティア活動で地域に寄与している方々を対象に活動に必要な資質の向上を図ると共に相互の交流を図る機会とする。	読み聞かせについては、呼びかけを更に拡大し、学校支援活動へ活かし、今年度作り上げた朗読劇を各校や保育所等で披露できるように支援が必要。	各校読み聞かせ団体へ呼びかけの徹底。 講座の中で習得した朗読劇を各団体で活用するよう依頼をした。 成果発表の機会を設けた。	読み聞かせスキルアップ講座に集中し、朗読劇を習得することで、読み聞かせ団体の更なる資質の向上につながった。 学校において朗読劇の披露等などにつながり、学校支援・ボランティア活動の活性化につながった。 今年度は、朗読劇を2作、作りあげる事ができた。 ・ともだちは海の匂い ・だってだつてのおばあさん 読み聞かせスキルアップ教室(朗読劇制作)：10名	読み聞かせ団体と講師との日程調整を慎重に行い。受講者の増加に取り組む	B	①現状の内容で継続(名称の変更)

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
公民館講座 (6講座開設)	村民に対して学習機会を提供するとともに指導者養成を図る。	1回限りの講座でなく、サークル化への啓発や支援を継続して図る。また、婦人団体を母体として講座申請が多いので、あらゆる団体から申請してもらえようように周知を図る。	講座開設申請者が婦人を母体とした団体に偏らないよう、各団体や各区長へ周知依頼をした。 公民館講座での成果を発表する機会を提供した。 また、同内容を継続して開催しているグループについては、サークル化への助言をした。	講座を開設したグループ等の活動支援及び交流につながった。 また、手芸・クラフトバック教室については、技術を習得することで、家庭内就業への意識改革にもつながった。 名嘉真公民館(パソソ) : 9名 安富祖公民館(カービング) : 18名 南恩納公民館(健康フラ・漆小物づくり) : 15名 富着公民館(スソハ) : 9名 前兼久公民館(クラフトバックづくり) : 13名 仲泊公民館(編み物) : 19名	今後も引き続き婦人を母体とした団体以外からも申請があるように、周知を継続して行う。 成果発表会への参加協力依頼を継続して行う。 活動を継続して行っているグループについては、引き続きサークル化移行への支援が必要である。	A	①現状の内容で継続
青少年劇場小公演事業	優れた芸術を直に鑑賞し、感動と歓びを与えることを目的とする。県文化課からの受託事業。	演奏会方式で実施されているが、今後は児童・生徒からの発表等も交えての事業展開ができないか、検討が必要である。	児童生徒のリコーダーの体験指導が出来ないか、講師と調整を試みた。	短時間ではあるが、講師の指導により、児童のリコーダーの体験ができた。	児童生徒の演奏発表など児童生徒に参加の機会がもてるよう取り組みたい。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
村青少年健全育成事業	村の補助事業として村内各団体で青少年健全育成協議会を組織し、次代を担う青少年の健全育成を図る。	夜間街頭指導については、各団体や学校の生徒指導担当との連携を密にし、街頭指導の方法や、巡回場所の調整等が必要である。 家庭・地域の教育力の向上を図るためあいさつ運動ののぼり旗やチラシ等を活用し啓発活動に取り組む。	夜間街頭指導については、各校PTA・生徒指導へ協力依頼をした。 深夜はいかい防止に関する周知チラシを作成し配付した。 のぼり旗作成についてライオンズクラブとの調整に取り組んだ。	深夜はいかい防止周知チラシを配付することで、家庭や地域の啓発につながった。 恩納ライオンズクラブより寄付を頂き、のぼり旗を村立小中学校5校、各字公民館へ配布した。	夜間街頭指導の充実を図るため、地域の青少年を把握している保護者（各字子ども会）へ協力依頼をする必要がある。 深夜はいかい、青少年の生活リズム形成等の啓発活動に引き続き取り組む。	B	①現状の内容で継続
人材育成激励金支給事業	教育、芸術、文化スポーツの分野において優秀な成績を収めた個人に対し、激励金を支給することにより、人材育成と教育、芸術、文化、スポーツの振興を図る。	広報紙等を活用し、継続して事業の周知徹底に努めていきたい。	支給事例を広報誌で紹介すると共に、役場ロビーでの演奏会を行い周知活動を行った。	スポーツ競技は23年度の69件に対し、81件の支給があった。 ○スポーツ面 ソフトボール 学生29件、一般28件 バドミントン 学生15件 駅伝 学生3件、一般2件 野球 学生4件 ○文化面 三線 学生3件 エイサー 一般7件 リコーダー 一般6件	今後も支給事例について広報誌等を活用して紹介し、周知を図りたい。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
文化情報センター (図書館) 準備室 業務	公立図書館の設置に向け、必要な事務を行うと共に、住民に対し、図書館サービスの提供を図り、読書活動を推進する。	図書館の設置に向け、円滑な事務を図ると共に、移動図書館や近隣図書館の協力による広域貸出しサービス等の住民への図書サービスが円滑に図られるよう取り組む。 ・図書管理システムを導入し、現在所有する図書や、寄贈図書等の登録や管理に取り組む。	・金武町、読谷村広域貸出しサービスのご協力を依頼した。 ・図書館システムを導入し、図書の登録作業に取り組んだ。 ・県立図書館の図書貸出しサービスの周知に取り組んだ。 ・文化情報センターの実施設計に取り組んだ。 ・移動図書館の開催について取り組んだ。	・金武町 登録者数 89人 利用者数 598人 貸出冊数 2,560冊 ・読谷村 登録者数 77人 利用者数 308人 貸出冊数 1,699冊 ・県立図書館 登録者数 20人 利用者数 26人 貸出冊数 82冊 ・移動図書館 24年度は2回実施。 来館者 379名 貸出人数 108名 貸出冊数 746冊 ・準備室図書登録冊数 2,209冊 ・文化情報センター実施設計業務の完了	・金武町、読谷村における広域貸出しサービスの継続依頼とともに村民への利用マナーの啓発に取り組む。 ・県内図書館との相互貸し出しサービスの周知に取り組む。 ・図書の登録に取り組むとともに準備室での貸出について取り組む。	A	①現状の内容で継続
各種社会体育事業 の充実	村民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	継続して体力テストを実施し、村民の健康増進を推進していく	福祉健康課等と連携し、健康福祉まつりで体力テストを実施した。	体力テストを実施し、健康増進の意識高揚につながった。 実施者 18名(25名)	体力テストの参加者が増えるよう普及活動に力を入れる。また、体力テスト以外にも関係団体と連携して行える事業を展開していく。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実 (スポーツ教室)	村民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	だれでも参加しやすく、すぐ取り組める内容の教室を展開する。	夜間に教室を開催し、誰でも出来る「ストレッチ&歩行術」を南部地区、北部地区で各5回開催した。	多くの村民の参加があり、健康増進への意識高揚につながった。 北部地区 42名 南部地区 58名	スポーツ推進委員と連携し、参加しやすい教室展開を継続する。	A	①現状の内容で継続
各種社会体育事業の充実 壮年バレーボール	村民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	今後も監督会議等で話し合い、参加者全員が楽しめ、壮年の健康増進につながるような大会運営が出来るようにしたい。	監督会議で前年度の改善点を確認、また参加者が楽しめることを重点にルール改正した。	楽しみながらプレーすることができ、健康増進の意識高揚につながった。 参加チーム 7 (12)	参加者全員が楽しめるような大会運営と、参加チームが増えるようにスポーツ推進委員と協力しながら周知活動していきたい	B	①現状の内容で継続
各種社会体育事業の充実 (壮年ソフトボール)	村民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	当日キャンセルが数チームあり、試合日程に支障が出たので支障がでないよう監督会議等での調整を徹底したい。	監督会議で十分調整し、当日キャンセルがないよう調整した。	当日キャンセルがなく、予定通り試合日程が進み、スムーズな大会運営ができた。 参加チーム 18 (19)	スタッフが少なく、大会運営が大変だったので、参加チームにも協力してもらって大会運営を行えるよう調整していく。	B	①現状の内容で継続
各種社会体育事業の充実 女性スポーツ大会 (ソフトバレー)	村民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	次回からはソフトバレーに種目を変更し、ルールも幅広く楽しめるように検討する。	キンボールからソフトバレーに種目変更し、ルールや出場枠を幅広い年代が楽しめるように大会運営を行った。	幅広い年代で楽しめ、スポーツをする機会を与えることができた。 参加チーム 18 (9)	ルール等の確認、審判(スポーツ推進委員)の更なるスキルアップが必要である。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実 (ミニバレー大会)	ミニバレーを通してスポーツ技術の向上を図り、健康増進の意識高揚、村民の親睦を深める。	大会日程が他のバレー大会と重なってしまい、参加チームが減少してしまったので、今後は各行事との調整、周知に力を入れ、参加チームを増やし、スポーツを通して健康増進等に努める。	年間日程表への記載、またスポーツ推進委員が地域での呼びかけを実施した。	参加チームも増え、各クラスで参加があり、幅広い年代でミニバレーを楽しむことができた。 参加チーム 16 (14) チャレンジクラス 7 チャンピオンクラス 9	参加チームを増やすために、継続して周知活動に力を入れていきたい。	B	①現状の内容で継続
スポーツ推進委員 (体育指導委員) の資質向上	各種スポーツの振興と普及活動を支援し、スポーツ推進委員個々の資質の向上を促す。	今後も講座等で学んだことを地域へ還元できるようにスポーツ推進委員での企画、運営に取り組みたい。	県や中頭地区での研修へ積極的に参加した。 また、村で行われる大会やイベント等に繋がる研修を自ら企画し実施することで、スポーツ推進委員の資質向上につながった。	新しく取り入れた種目のルール等の研修を取り入れたことで、スポーツ推進委員が中心になって大会運営ができた。(ソフトバレー大会) スポーツ推進委員参加延べ人数 H23 402人 H24 325人	県、中頭地区の研修への参加、 また、自ら研修を企画し、スポーツ推進委員全員の資質向上を図る。	B	①現状の内容で継続
恩納村体育協会、 国頭郡体育協会 の活動支援	恩納村及び国頭郡の体育協会に補助金を交付し、その活動を支援することによりスポーツの振興を図る。	今後も引き続き、スポーツの振興や競技力向上に繋がるよう指導助言を継続する。	スポーツ振興、競技力向上に繋がるような事業展開の提案など、指導助言を行った。	今回は新たな事業展開はなかったが、駅伝、男子ソフト、バドミントンなどで優秀な成績を収めた。	スポーツ振興、競技力向上のために、事業展開や施設の有効活用等の指導・助言を行っていく。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
<p>村立小中学校体育施設（プール）の一般開放事業</p>	<p>夏休み期間中、学校施設を有効活用し、村民の泳力及び体力の向上を図る。</p>	<p>今後も土日開放を継続するとともに、開放期間中の水泳教室実施に取り組み、参加者及び管理人等の資質向上に努めたい。</p>	<p>土日開放を継続し、山田校、恩納校で開放期間中の水泳教室を実施した。</p>	<p>教室実施数及び参加者 山田校 4回(71名) 恩納校 3回(48名)</p> <p>プール利用延人数 974(883) 安富祖：100(86) 喜瀬武原：179(71) 恩納：250(393) 仲泊：247(217) 山田；198(116)</p>	<p>開放期間中の水泳教室は今後も継続していきたい。土日開放については、土日の利用が少ないので検討の余地がある、</p>	B	①現状の内容で継続
<p>各種団体等県外派遣補助事業</p>	<p>村民のスポーツや文化的活動に対する意欲を向上させ、各種スポーツ及び文化的活動の振興を図る。</p>	<p>事業を継続し、該当する団体の情報収集、周知徹底に努め、多くの団体へ派遣補助を行い、スポーツ、文化活動への意欲向上を図る。</p>	<p>派遣事業に該当する団体の情報収集、広報誌等の活用、周知徹底に努める。</p>	<p>○小学生 団体：2団体(2団体) (ソフトボール、バドミントン) 個人：1名(2名) (空手)</p> <p>○一般該当なし</p>	<p>事業を継続し、該当する団体、個人等の情報収集、広報誌等での周知に努め、スポーツ、文化活動への意識向上を図る。</p>	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
村体育施設維持管理事業	村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行わせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。	施設利用率向上に向けて、施設維持管理を徹底したい。 また、指定管理者側への自主事業開催の継続等の指導、連携に努めていきたい。	施設利用率向上に向けての施設維持管理徹底の指導を行った。 また、定期的に調整会議を行い、問題点解決に向けた取組、村の要望等を伝え、指定管理者との意思疎通を図った。	施設維持管理については、利用者からも好評である。 ○自主事業の開催 ・少年サッカー大会 36 チーム参加 ○体育の日無料開放 ・石川高校、嘉手納高校、読谷高校練習試合（野球場） ・村内小学校野球交流戦（野球場・運動場） ・村内小学生ラグビー交流戦（サッカー場） ○三星ライオンズ野球教室（野球場） 150 名参加 ○キャンプ時バッティング・ブルペンテント設置業務 収益 1,240,000 円	施設の維持管理徹底に努めていくとともに、活用しやすい施設運営行っていくよう指定管理者とうまく連携し、施設収入増を目指す。	B	①現状の内容で継続

(3) 学力向上推進委員会事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
地域学習塾支援事業	学力向上推進委員会の組織を強化し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら心・知・体の三拍子揃った子どもの育成を図る。	各区支部の人材育成課題に基づいた地域塾の開催と講師の確保。保護者の負担が大きいとの声がある。	各家庭地域支部の課題をあらゆる機会発信する。	全ての地区において、計画・実施された。 140回、延2,218人参加 各自治会会長が運営に当たるところもあった。	運営についての共通確認が必要である。	B	①現状の内容で継続
石狩市中学生交流事業	地理・歴史・文化の異なる北海道との交流体験を実施することで、沖縄の文化との違いについて学ぶとともに、人間性豊かな人材の育成を図る。 ※ 隔年ごとに派遣、受け入れで実施する。	24年度は派遣となるため、早い段階から計画を練る必要がある。	派遣募集を10月に行い、その後12月には最終決定、1月に事前研修会を計画する。	17名の派遣が決定、事前研修を終え、滞りなく研修が修了した。新たに、雪かき体験とピースミーティングが加わった。	20名の参加枠に対し、17名の応募であった。料金や民泊で応募者が少ないのではないかと。次年度は、受け入れ内容の検討が必要。	B	①現状の内容で継続
教職員講演会事業	教職員や保護者の資質の向上に資することを目的として著名人を招き、講演会を開催する。	家庭・地域向けの教育講演会の実施。	学びを確かめつなぐ集いで、家庭・地域向け講演会を設定する。	ワークライフハーモニーの「神村佳宏」氏を迎えての講演会を実施。 引き続き教職員を対象に「川嶋環」氏を3校に派遣。	家庭地域向け講演会開催についての動員方法。	B	①現状の内容で継続
教職員先進地視察研修事業	学習内容の定着率の高い県外の都道府県に小中学校の教職員を派遣し、学力定着に向けた指導方法の工夫改善に資する。	ミドルリーダー育成のための先進校視察研修の継続。	新学習指導要領の「判断力・表現力・思考力」の評価についての視察とする。	中学校において、先進校視察の指導内容を参考にし、教育委員会主導の下に2校が実施。	教育委員会課題から学校課題に対する研修に変更。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
学推実践報告会	恩納村学力向上推進の取り組みの成果と課題を、学校・家庭・地域の立場から検証する	保護者や地域の方の参加者を増やす。	広報誌や広報無線を活用して知らせるとともに学校へはちらしを作成して保護者へ参加を促す。	「被災地へ届け沖縄の心」として児童生徒を全面に出すという取り組みを実施した。昨年度同様、教職員の参加が多く、保護者の参加が少なかった。	P T Aや子ども会に依頼し、地域住民や保護者の参加率を上げる。	B	①現状の内容で継続
諸検定料支援事業	全国規模で実施されている漢字検定・英語検定・数学検定等を希望する児童生徒に半額補助し、学力についての意識化と定着を図る。	当初予算を消化できず、意義について保護者への啓蒙が必要である。執行状況の確認と調整。	校長会・教頭会・計画訪問において受験者を増やすよう呼びかける。	例年受験者が増えている。 英語 387人 漢字 635人 数学 239人	学校によって受験者数が変わるため、全ての学校において活用されるよう周知する。	B	①現状の内容で継続
未来塾事業	高校受験を控えた中学校3年生に対し、学習への不安・課題を解消するために実施する。	時期を早めて長期で対応。	運動会終了後に開講する。	10月から3月までに35回実施した。安富祖・恩納両校の受講者が全員高校へ進学した。	恩納校・山田校への拡大への対応。	B	②事業規模を拡大して継続
スキルアップ研修	各学年・教科1人体制という課題を解決するため、村内職員が協力して協議し、互いの資質・能力を高めるために行う。	今後、各学年・教科の拡充を図る。学年度末に各活動の振り返りをする時間がなかった。	スキルアップ研修の意義や本年度の取り組みについて共通理解を図る。最終の開催では、各部会に分かれて年間活動を振り返る時間を確保する。	学校課題の解決に向けた取り組みが増えた。 年間に決められた回数以外に独自に集まり課題解決に向けての取組を実施する部会も見られた。外部講師の活用もみられた。	開始時間について早める必要がある。まとめの分科会は設定する必要がある。	B	①現状の内容で継続
各種コンクール事業	各種コンクール事業を開催することにより、児童生徒に発表の機会を与える。	各種コンクールの開催時期を検討する。	年間事業計画に位置づけて実施する。	本年度も、学校給食・あいさつ標語・夢作文・美化コンクールへの多くの児童生徒の応募があった。	美化コンクールについては、研修会へ変更。	B	①現状の内容で継続

(4) 博物館所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
博物館運営	博物館は村の自然、歴史、文化を発信する生涯学習機関としてふるさと学習の拠点となるよう、関連する資料の収集、整理、保存活用に努めると共に、展示公開、調査研究を充実させ、企画展、各種講座、芸術鑑賞の機会をとおしてふるさと学習にふさわしい施設としてその活性化を図ります。	運営協議会の中でも、博物館の活動や展示会、講座などのイベント情報などを広く発信するために、博物館のホームページの整備などの必要性の提案があり、今後整備に向け対応を検討したい。村内小中学校などの他機関などとの連携についても検討が必要である。	展示会等の開催時などには役場HPの活用、村内各所に立て看板を設置するなど、周知のための広報活動の強化に取り組む。 また、恩納村文化展の会場としての協力や仲泊の大正琴サークルの練習場所の提供、移動図書館や教育課の講座の会場としての利用など、村民による施設の活用に重点を置いた利用方法を検討。 村内の教職員の研修の受け入れ、小中学校の授業での利用の受け入れなど。	博物館利用人数 9,751 名（前年度 7,659 名。）内訳として、入館者 6,694 名、施設利用者 3,057 名。 平成 24 年度は 3 回の展示会、サンセットコンサート、4 回の講座・体験教室などを開催したほか、博物館施設の活用に取り組み、博物館利用者の増加に繋がった。 また、運営協議会では村民による博物館の活用という方向性の確認と継続して取り組んでいくことの重要性の指摘があった。	村民による施設の活用の取り組みについて、その成果を評価するため、入館者数のカウント方法の検討など統計情報の充実が必要である。 また、継続した入館者・施設利用者増加のための企画に取り組んでいく。	B	①現状の内容で継続
「海に見える博物館、うんな工芸展」	村内で活動する作家の作品をとおして、伝統工芸、現代の工芸を紹介すると共に、体験教室を開催し、伝統工芸や現代の工芸の魅力に触れる事により村民に工芸や芸術に対する理解を深めてもらう場とする。	展示会中の入館者数が伸び悩んでおり、今後展示会の内容の改良などを検討していく。	村内施設（ホテル等）や周辺市町村の公共施設へのチラシの配布、立て看板の設置やラジオでの案内など広報活動の充実を図る。 期間中に開催する工芸体験の内容を見直し、来場者が参加しやすい企画にする。	7/10～22 に開催（12 日間）。期間中の来場者 439 名（前年度 19 日間、465 名）。例年より 1 週間ほど短い開催期間となり、総来場者数は前年度を割り込んだが、1 日の来場者数は増加している。工芸体験では特に漆喰シーサー作りが人気であった。	工芸の分野の充実、新規出展者の開拓、展示方法などを検討し、より特色ある展示会作りを目指す。 また、工芸体験の定着を目標とし、内容の充実を図っていきたい。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
企画展 「おーっ!こんなクモがいるの!!～意外と知らないクモの世界～」	博物館が収蔵する資料や文化財の資料を活用し、恩納村の情報を発信し、村の歴史や文化財に対する理解を深めてもらう場とする。	毎年の企画展をとおして、自然・歴史・文化などの広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めたい。	恩納村誌編さん事業の自然史の調査の中で、珍種といわれるクモが恩納村内で数多く生息していることが確認された。 こうした村に関する調査成果の公開を目的として、クモの生態や恩納村に生息しているクモを紹介する展示会を開催した。	7/31～9/30 開催(51日間)。期間中来場者1,498名(前年度企画展725名)。 生体展示や液浸標本、写真パネルなどを用いて、クモの生態などを紹介していた展示や工作のコーナーが好評だった。 また、関連催事として、講座や自然観察会を開催した。	継続して自然・歴史・文化などの広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めたい。	A	①現状の内容で継続
(共催事業) 平成24年度 沖縄県芸術文化祭 写真選抜展	沖縄県、沖縄県文化振興会主催の「沖縄県芸術文化祭」の移動展を受け入れ、村民が芸術作品を鑑賞する機会を設け、芸術振興に資することを目的とする。	平成23年度で2回目を迎え、徐々に開催を認知してもらえてきているが、資料借用の都合もあり、開催期間が短いので、調整し、もう少し長めの期間を確保したい。	恩納村博物館での開催期間を延ばそうと調整を行う。 また、周知のために、立て看板の設置、周辺市町村の公共施設への広報物配布などを行った。	11/20～25 開催(6日間)。期間中来場者217名(前年度5日間、158名)。68点の写真作品を借用し、展示を行った。毎年、少しずつではあるが来場者が増加してきている。	県芸術文化祭本展の開催時期が毎年異なるため、他の博物館事業等と重なってしまい、長めの開催期間の確保が難しいので、今後期間の検討が必要と考えている。	B	①現状の内容で継続
サンセットコンサート	博物館を活用し、村民を中心に優れた芸術・音楽・芸能等を鑑賞する場を提供することで、芸能等への関心を高め、恩納村の文化振興に資することを目的とする。	村内出身者などの人材の活用、幅広いジャンルでの開催を検討。	県内の技術保持者として認定されている琉球箏や十七弦箏の奏者とフルート奏者の方々に出演を依頼し、充実した内容の演奏会を実施した。	平成25年3月17日(日)に開催。来場者60名。(前年80名) 博物館のホールを利用し、コンサートを実施。会場で実施したアンケートでも好評を得ていた。	アンケートでも好評を得ているので、村内出身者などの人材の発掘、幅広いジャンルでの開催を検討。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
博物館講座 「クモってどんな生きもの？」	博物館主催の講座をとおして、村民に村の自然、歴史、文化についての理解を深める場を提供する。	今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などの実施する。	夏休み期間に合わせ、博物館講座を実施。小学生でも解りやすい内容の講座を企画し、同時期に開催していた企画展の内容を深められるように取り組んだ。	平成24年8月11日に開催。参加者20名。 企画展の開催に協力していただいた千木良氏に講師を依頼し、博物館研修室にて、クモの生態や特徴について学ぶ講座を開催した。	今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などを実施する。	A	①現状の内容で継続
自然観察会 「野外でクモをみつけよう！！」	博物館主催の講座をとおして、村民に村の自然、歴史、文化についての理解を深める場を提供する。	今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などを実施する。	夏休み期間に合わせ、自然観察会を実施。同時期に開催していた企画展の内容をより掘り下げるために、展示会に協力していただいた千木良氏に講師を依頼し、参加者たちが体験できる観察会を開催する。	平成24年8月18日に開催。9名参加。 博物館周辺や仲泊遺跡、歴史の道周辺などで、講師の千木良芳範氏による解説を聞きながら、参加者たちがそれぞれでクモを見つけ、クモの生態や生息している環境に対する理解を深めた。	今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などを実施する。	B	①現状で継続
博物館講座 「オリジナルしおり作り～漆の絵付け体験をしてみよう！～」	博物館主催の講座をとおして、村民に村の自然、歴史、文化についての理解を深める場を提供する。	今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などを実施する。	恩納村博物館での移動図書館の開催に合わせ、物づくり講座を実施することで、博物館活用の相乗効果を期待する。	平成25年3月3日に開催。参加者35名。村内で活動する漆工芸作家に講師を依頼し、参加者たちがオリジナルのしおり作りに取り組んだ。	今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などを実施する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
博物館年報（平成22・23年度）の刊行	博物館のこれまでの活動に関する情報をまとめることで、今後の活動、方針を決定する際の指標とすることができる。記録することにより将来的な資料作成も兼ねる。博物館紀要と隔年にて作成している。	博物館の活動について、情報のまとめ方や掲載する内容について検討する。	展示会の様子が分かる写真や展示配置図などを積極的に掲載する。博物館の利用状況が分かる資料の掲載に努める。	平成22・23年度の博物館活動の情報をまとめて博物館年報を作成した。	博物館活動、博物館の利用・活用の状況が分かる資料を活用し、博物館活動の充実に向けた資料作りを目標とする。	B	①現状の内容で継続
歴史ロードを歩こう事業	恩納村内に所在する国指定史跡「国頭方西海道」やその一帯に所在する恩納村の財産である文化財を見て、聞いて、触れることで文化財愛護思想の啓発を図った	平成23年度は、高齢な方々の参加が多かった。そのため安全管理及び対策を検討する。	適切な安全管理を目標に声掛けや、道路付近の誘導、歩行時の呼びかけや滑りやすい箇所等に職員を配置した。	5月12日に実施。参加者49名。村内と村外の参加者が約半々で、次回も参加したいという意見が多く寄せられた。 前年度(H23)参加者：50名	引き続き、事業実施に当たっては参加者の安全管理に配慮する。	B	①現状の内容で継続
親子文化財めぐり	親子で文化財めぐりをすることにより、歴史や文化財への認識を高め、文化財保護の啓発を図る。	継続して村内の子ども会や学校への呼びかけを実施し、参加者の増加を図る。	村内を対象に一般公募し、各学校や子ども会、公民館等へ案内及び役場HPや村内放送で募集した。	3月20日に実施。村内の一般を含めた16名が参加。 村縁の護佐丸に関連する山田城や座喜味城跡など地域の文化財について学習する機会となった。 前年度(H23)参加者：親子25名	参加者の増加に向け、村内各学校及び子ども会、各公民館へ引き続き呼びかけを実施する。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
恩納村文化財ボランティアガイド養成講座	村内の文化財の利活用の充実を図るために恩納村文化財ボランティアガイド養成講座を実施。	平成 16 年度からボランティア養成講座を開催していたが、20 年度から実施していないため、ボランティアの養成に取り組む必要があった。	ボランティア養成講座を企画し、現ボランティアの資質の向上と、新たなボランティア人材の養成を図る機会とした。	文化財ボランティアガイドの増加、充実を図るため、養成講座を実施。1 月 1 2 日より 3 月 9 日まで全 9 回の講座を実施。受講生は 28 名でその内、履修生は 7 名であった。	ガイドを履修された方々より 2 年毎に養成講座を実施してほしい旨、要望があり検討する	A	①現状の内容で継続 (隔年開催)
恩納村文化財保護審議会	村内に所在する文化財の保護と活用について審議会を実施し、村内の文化財保護に努める。	村内の指定文化財の増加を図るために基礎情報を収集するためにも各公民館へ指定候補のアンケートを実施し、情報収集を図る。	村内の指定文化財の増加を図るため、国頭村、名護市、今帰仁村、金武町、宜野座村、宮古島市から指定に向けての手法や情報収集を実施した。	指定文化財の増加に向けて指定選定基準等の案を作成。平成 24 年度は年 2 回の審議会を実施。 審議会では、文化情報センター建設予定地の村指定文化財の現状変更の審議や(伝)アラカチャー屋敷跡等の開発予定地内の文化財視察、平成 24 年度事業報告及び平成 25 年度事業計画の報告等を行った。	村内の文化財の情報収集および指定文化財の増加を目指す。	B	①現状の内容で継続
国庫補助事業 恩納村内遺跡発掘調査等	国庫補助事業として 4 カ年事業で、村内の埋蔵文化財の分布状況の把握と開発調整に必要な確認調査の実施。	これまで確認された遺跡の保護及び活用について検討する。	山田・仲泊地区の開発予定地及び恩納南バイパス工事予定地内の埋蔵文化財の確認調査を実施。	1 1 月 1 日～3 月 29 日まで実施。山田・仲泊地区では屋敷跡や(伝)アラカチャー屋敷跡等の確認調査を実施。恩納南バイパス予定地では、遺跡の有無確認調査を実施。	開発予定地の継続的な基礎調査を実施し、将来の事業計画時における埋蔵文化財の保護を実施。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
受託事業 恩納南バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書作成業務	北部国道事務所より恩納南バイパス工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の作成業務を受託事業として実施。報告書を刊行する。	前年度取り組みなし		恩納南バイパス工事に伴う発掘調査した報告書の作成を実施。炭焼窯3基、旧道1箇所が発掘調査報告書を刊行した。	恩納南バイパス工事周辺の文化財の保護について検討する。	A	①現状の内容で継続
キャンプハンセン防火道路建設に伴う埋蔵文化財調査	沖縄防衛施設局よりキャンプハンセン内(恩納岳)の防火道路建設に伴う埋蔵文化財調査を依頼され、予定地の埋蔵文化財確認調査を実施。	前年度取り組みなし		調査は6月6日～6月28日まで実施。防火道路建設予定地の約500mの間に11箇所の調査区を設定し調査を実施。調査の結果、埋蔵文化財は無いことが判明しその旨防衛施設局に回答した。	基地内の文化財の把握は殆どされていないため、調査依頼があった場合には、情報収集に努め文化財の把握と保護に取り組む。	A	③事業の廃止(完了)
谷茶前川河川工事に伴う文化財調査	文化財保護法に則り、谷茶前川河川工事に伴う文化財の確認及び工事立会いを実施。	河川工事は多年度事業で、平成24年度も文化財保護法に則り対応が必要である。	谷茶前川河川一帯の遺跡である谷茶貝塚の保護のため工事立会いを実施した。	工事立会いは、1月21日より2月21日の間に実施。一部工事にかかる谷茶貝塚の工事立会いを実施し、約600～1,000年ほど前に使用された土器片などの道具の回収作業を実施。	今後とも継続して開発や工事に伴う村内の文化財保護に努める。	A	③事業の廃止(完了)

(5) 学校給食センター所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
栄養教室の開催	児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。	年間を通した食に関する指導計画の作成と実践。	食に関する年間指導計画の作成	食に関する年間指導計画を作成し各学校への周知を図った。	各学校で給食時間を利用した栄養指導の充実を図る	B	① 現状の内容で継続
村産食材の積極的な活用	安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進	おんなの駅や近隣生産者への情報提供による安定的な食材の確保や生産農家等との体験給食の実施。	地場産物を積極的に使用するために、おんなの駅と意見交換を行う。各学校、生産者との「ふれあい給食」の実施。	おんなの駅と品質や地産地消の向上を目的に意見交換を行った。各学校、生産者との「ふれあい給食」を行った。	地場産物の年間を通した安定供給ができるようおんなの駅との連携を図る。「ふれあい給食」が各学校の年間行事として取り組めるよう推進する。	B	①現状の内容で継続
給食センター見学の推進	給食の調理の状況を見学させて、その安全性を認識させる。	各学校の年間計画の中で取組んでもらえるような対応が必要。	各校と連携を図り学校行事として取組めるように推進。	各幼稚園のセンター見学があった。また生産者、おんなの駅職員のセンター見学があった。	幼稚園のみでなく小中学校でもセンター見学が実施できるよう推進する。	B	①現状の内容で継続
給食費徴収率の向上	安全で質の高い給食の提供するため、各自治会を通して徴収し、未納者はセンター職員が直接徴収。	口座振替の推進や各自治会、学校、PTAとの連携による徴収方法の検討、家庭訪問の実施	滞納者に対し電話督促や文書での催告を行い、それでも反応の無い納付意識の低い保護者に対し面談を行い納付意識を高める。	電話催告や文書による督促で少数ではあるが納付があった。	JA 以外の金融機関での口座振替等、納付のチャンネルを増やすことで納付しやすい環境整備。悪質な滞納者に対する強制執行の申し立て。	B	①現状の内容で継続
学校給食センター物品購入	学校給食を安全かつ衛生的に供給するために給食運搬車を購入する。	車検を終えた後もエンジントラブル等を起こし、運転業務に細心の注意を心がけた。	既存の給食配送車は、購入から16年を経過し老朽化が進んでいたため、予算確保に努めた。	防衛施設周辺調整交付金により車両を購入することができた。	購入から14年を経過した配送車の買い換えのための予算の確保。	A	①現状の内容で継続

4 外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成メンバー及び意見の内容は次のとおりです。

(1) 恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会

役 職	氏 名	任 期	備 考
委 員 長	大 城 勝 泰	平成 23 年 11 月 1 日～平成 25 年 10 月 31 日	元教育委員・元村議会議長
委 長	仲 本 政 夫	平成 25 年 8 月 1 日～平成 25 年 10 月 31 日	元教育委員、元中学校教諭
委 員	真 栄 城 慶 子	平成 23 年 11 月 1 日～平成 25 年 10 月 31 日	元村子供育成会会長

(2) 意見（答申）

当委員会は、教育長の諮問に基づき、教育委員会が平成 24 年度に実施した、85 の事業について、8 月 1 日、8 月 15 日、8 月 28 日に委員会を開催し、諮問された各種事務事業の評価や課題把握の根拠などについて、課長及び担当者の説明を受けながら評価を行いました。また 9 月 3 日には、これまでの会議の経緯の確認と意見の集約を行いました。その結果を答申いたします。

記

① 点検評価報告書について

平成 24 年度の事務事業点検の点検及び評価報告書につきましては、事務事業点検評価の目的、教育委員会の活動状況、事務の点検評価について、丁寧にわかりやすくまとめられておりました。事務事業の点検評価シートについても、PDCA サイクルに沿って事業展開ができるようまとめられており、その結果に基づいて次年度以降の事業展開ができるよう示されていることから、事業の改善や担当職員の意識改革が図られ効率的な事業展開ができるものと感じました。各種事業の評価について、事業によっては評価を判断する指標として、目標数値や対象者の範囲等が分かるような標記になっていればなおわかりやすくなると思います。評価は毎年実施するものであるので、指標を明らかにした方がよいのではと思います。数値目標の達成状況に応じた評価を行うと共に、事業実施に要した経費を表示することで費用対効果も含めて村民目線で評価できるものと思います。今後ご検討をお願いしたいと思います。

② 事務事業の評価について

今回は 85 件の事務事業についての教育委員会事務局の自己評価の点検を行いました。記述されている文面だけでは把握できないため、担当者からヒヤリングを行い事業実績や事業の成果、事業に対する自己評価等の詳しい説明を受けました。自己評価の内容につきましては、目標以上に効果を上げることができたとする S 評価が 1 件、目標が達成できたとする A 評価が 25 件、目標が概ね達成できたとする B 評価が 56 件、目標の一部しか達成できなかったとする C 評価が 2 件、目標が達成できなかったとする D 評価が 1 件となっております。D 評価については、サバイバルキャンプ事業が台風の接近により事業が実施できなかったことによる評価となっております。取組み内容や事業成果を見る限りにおいて、全体的に評価は概ね妥当だと思います。

個々の事業で見ても、学校教育関係事業で学校備品関係の整備状況等で A 評価が多いのは良いことだと思います。今後も学校備品の充実に努めていただ

きたいと思います。また、全国学力学習状況調査の学力の結果や学習環境・生活環境についての課題等について、学力向上対策の一環としてこの報告書で取り上げていただければと思います。学習支援員・特別支援教育支援員配置事業については、学校間において学力に差があると言われているので、担当教諭の指導力の向上はもちろんのこと、学習支援員についても少人数指導等きめ細かな指導と教育的ニーズに応える必要があります。教育委員会の優先的な課題として研修の機会を増やす等指導力向上を図るための対策が必要であります。特別な支援が必要な子ども達への指導については、担任と特別支援教育支援員が連携して指導の方向性を見いだすと共に保護者の対応を含め教室の環境づくりに努める必要があります。特別支援教育支援員の指導力については、年々改善されてきていると思われませんが、特別支援教育支援員の指導力の向上を図るための研修機会やアドバイスを受けられる機会を増やす必要があります。

社会教育関係事業では、国際交流派遣事業について、参加者が増えたことは評価しますが、派遣するだけではなく研修後の子ども達のその後についての追跡調査を行い検証する必要があるのではと思います。また、アメリカだけではなく他の地域への研修派遣も考えて良い時期にきているのではと考えます。社会教育関連事業の講座や教室については、村民の年齢構成の変化や生活環境の変化に応じてより多くの村民への有意義な教室、講座を開設し効果的な事業が展開できるよう努力が求められています。自主的な企画を多く村民に提供するとともに、多くの村民に親しまれ評価されるような事業を実施していくことが必要であります。また、事業を実施するにあたっての周知のあり方については、広報無線だけに頼ることなく広報紙等を活用し広く村民に周知することにより参加者増加に努めていただきたいと思います。

給食センターにおける村産食材の活用につきましては、利用率の向上は大いに評価します。今後もなかゆくい市場との連携を強化し、村産食材の利用率の向上に努めるとともに給食費の徴収についても徴収方法の改善等により徴収率向上を図っていただきたいと思います。

その他、個別の事業について、審査の過程で多種多様な指摘や提言がありましたがその全てを列記することは省略し、資料として会議録を添付いたしますので今後の事業展開の参考に供していただければ幸いです。

③ むすびに

現在の教育委員会の事業は多義に亘り、事業数も多いことから、他の事業との重複している事業や参加者の偏った事業などは、ある程度の事業整理も必要だと思います。この事務事業の点検評価は、前年度に実施した事業について、既に現年度の事業が進んでいる時点で行われなければならないシステムであるため、外部評価委員の意見がどの程度即効性をもって反映されているか疑問視されますが、事業終了後に行う総合評価だけではなく、事業途中で行う形成的評価を取り入れることにより、現在進行中の事業であっても途中で区切りをつけて評価し、より実効性のある点検及び評価とするためにも一度立ち止まっての点検も必要ではないかと思います。

この点検・評価については、教育委員会が自己評価するものでありますが、事務事業の点検・評価の結果を公表することで村民への説明責任を果すとともに事務事業の課題を明確にすることの意義は大きいものがあると思います。

外部評価委員会は、教育委員会の自己評価に対する知見の活用としての役割として考えております。これまでいくつかの課題が改善されてきており、事務事業点検評価が課題の改善に繋がっているものと思っております。

この事務事業点検評価が、次年度以降の教育目標や今後の事業執行、予算等に反映されるとともに、事務事業の改善に活用されるよう職員が点検評価の趣旨を十分に理解し、高い事業目標を掲げ、常に受益者たる村民の目線で担当する事業を進めていけば、より効果的な事業展開が行われ、本村教育の更なる振興につながります。今後なお一層のご活躍をご期待申し上げ外部評価委員会の答申と致します。

5 おわりに

今回の点検評価は教育委員会にとって5回目の報告書となります。このシステムについても各担当者に浸透してきました。今後ともなお一層村民によりわかり易い内容になるよう検討を進めながらその内容の充実に努めていきたいと考えております。

事務事業の点検及び評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務事業の管理及び執行状況を点検及び評価することにより、その成果や課題を確認することで、今後の事務事業の改善に反映させるとともに、具体的、効果的な教育行政の推進を図ることを目的としています。

今回の点検評価で明らかになった課題については、次回の点検評価でその取組みの経緯と結果がわかるよう報告していきたいと思っております。また外部評価委員会の意見を謙虚に受け止め、教育委員会組織の充実に努めるとともに、質の高いサービスを村民に提供できるよう事務事業の改善やより効果的な事務事業の実施と内容の充実に努めてまいります。今後とも教育委員会の実施する事業に対し更なるご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成25年9月

恩納村教育委員会